

英雄の器

芥川龍之介

青空文庫

「何しろ項羽こううと云う男は、英雄の器うつわじやないですな。」

漢かんの大將呂馬通りよばつうは、ただでさえ長い顔を、一層長くしながら、疎まばらな髭ひげを撫なでて、こう云つた。彼の顔のまわりには、十人あまりの顔が、皆まん中に置いた燈ともしび火の光をうけて、赤く幕營の夜の中にうき上つている。その顔がまた、どれもいつになく微笑を浮べているのは、西楚せいその霸王はおうの首をあげた今日の勝かち戦いくさの喜びが、まだ消えずにいるからであろう。――

「そうかね。」

鼻の高い、眼光の鋭い顔が一つ、これはやや皮肉な微笑を唇頭に漂うわせながら、じつと呂馬通りよばつうの眉の間を見ながら、こう云つ

た。呂馬通は何故か、いささか狼狽ろうばいしたらしい。

「それは強いことは強いです。何しろ塗山とざんの禹王廟うおうびようにある石の鼎かなえさえま枉げると云うのですからな。現に今日の戦いくさでもです。私は一時命はないものだと思いました。李佐りさが殺される、王恒おうこうが殺される。その勢いと云つたら、ありません。それは実際、強いこととは強いですな。」

「ははあ。」

相手の顔は依然として微笑しながら、鷹揚おうように領うなずいた。幕営の外はしんとしている。遠くで二三度、角かくの音がしたほかは、馬の嘶いななく声さえ聞えない。その中で、どこことなく、枯れた木の葉の匂においがする。

「しかしです。」呂馬通は一同の顔を見廻して、さも「しかし」らしく、眼まばたきを一つした。

「しかし、英雄の器うつわじやありません。その証拠は、やはり今日の戦うごうですな。烏江うごうに追いつめられた時の楚の軍は、たった二十八騎です。雲霞うんかのような味方の大軍に対して、戦った所が、仕方はありません。それに、烏江の亭てい長ちやうは、わざわざ迎えに出て、江こ東うとうへ舟で渡そうと云ったそうですな。もし項羽こううに英雄の器があれば、垢を含んでも、烏江を渡るです。そうして捲けん土どち重ちゆう来らいするです。面めん目もくなぞをかまっている場合じやありません。」

「すると、英雄の器と云うのは、勘定に明いと云う事かね。」

この語ことばにつれて、一同の口からは、静な笑い声が上った。が、

呂馬通は、存外ひるまない。彼は髯から手を放すと、やや反り身そになつて、鼻の高い、眼光の鋭い顔を時々ちらりと眺めながら、勢いよく手真似てまねをして、しやべり出した。

「いやそう云うつもりじゃないです。——項羽はですな。項羽は、今日戦いくさの始まる前に、二十八人の部下の前で『項羽を亡すものは天だ。人力の不足ではない。その証拠には、これだけの軍勢で、必ず漢の軍を三度破さんどつて見せる』と云つたそうです。そうして、實際三度どころか、九度くたひも戦つて勝つています。私に云わせると、それが卑怯ひきようだと思ふのですな、自分の失敗を天にかずける——天こそいい迷惑です。それも烏江うこうを渡つて、江東の健児を糾き合ゆうごうして、再び中原ちゆうげんの鹿を争つた後でなら、仕方がないで

すよ。が、そうじゃない。立派に生きられる所を、死んでい
す。私が項羽を英雄の器でないとするのは、勘定に暗かったから
ばかりではないです。一切を天命でごまかそうとする——それが
いかんですな。英雄と云うものは、そんなものじゃないと思うで
す。しやうじやうしやう蕭 丞 相 のような学者は、どう云われるか知らんですが
」。

呂馬通は、得意そうに左右を顧みながら、しばらく口をとぎし
た。彼の論議が、もつともだと思われたのであろう。一同は互に
軽い領きを交しながら、満足そうに黙っている。すると、その中
で、鼻の高い顔だけが、思いがけなく、一種の感動を、眼の中に
現した。黒い瞳が、熱を持ったように、かがやいて来たのである。

「そうかね。項羽はそんな事を云ったかね。」

「云ったそうです。」

呂馬通は、長い顔を上下に、大きく動かした。

「弱いじゃないですか。いや、少くとも男らしくないじゃないですか。英雄と云うものは、天と戦うものだろうと思うのですが。」

「そうさ。」

「天命を知つても尚、戦うものだろうと思うのですが。」

「そうさ。」

「すると項羽は——」

劉^{りゅうほう}邦^{ほう}は鋭い眼光をあげて、じつと秋をまたたいている燈^{とも}火^びの光を見た。そうして、半ば独り言のように、徐^{おもむろ}にこう答え

た。

「だから、英雄の器だったのさ。」

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1986（昭和61）年10月28日第1刷発行

1996（平成8）年7月15日第11刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1998年12月7日公開

2004年3月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

英雄の器

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>